

第3種郵便物認可

食べ物つまらせ 唐突な死

介護施設の誤嚥・窒息 年403件

こえん



5

食べ物や気管のどに詰まらせてしまう誤嚥や窒息の事故が介護施設で目立っている。加齢とともにのみ込み力は衰えてくるもの。いかに防ぐかの模索が介護現場で続く。

鹿児島県内の介護老人保健施設で4年前、2泊3日のショートステイで入所していた70代後半の男性が、

朝食でロールパンなどを食べた後にむせた。約1時間後、男性は心肺停止状態に。のどからパンのかたまりが取り除かれたが、低酸素脳症に陥った。意識が戻らず、重い障害が残った。

宮崎支部に控訴したが、和解した。パンは一切れであったも、口に含むと水を吸って

大きく重くなるため、食べ物のみ下す嚥下機能が弱い人には危険だとされる。一審判決によると、家族は事前に施設側に「誤嚥を起しやすいため、おにぎりや一口大(10分割)にしてほしい」と伝えており、施



食事する高齢者の口の動きやのみ込みの様子を確認する言語聴覚士(右)と管理栄養士＝東京都東村山市、関田航撮影

設の複数の記録にもその記載が残っていた。誤嚥や窒息は、死に直結する危険性が指摘されている。朝日新聞は、政令指定市と県庁所在地、東京23区の74自治体に、介護事業所で発生した死亡事故について情報公開請求した。公開された施設作成の報告書(2016年度)を集計すると、年間の死亡事故は

700件。うち最多の403件を誤嚥(食べ物などと一緒に細菌が気道に入って発症する誤嚥性肺炎へ30件)を含む。窒息の関連が占めた。

士、管理栄養士、看護師など多職種で構成する検討委員会を開いて、身体機能の落ちてきた利用者を中心に、食事の内容や、食べるときの姿勢、スプーンの大さきなど、適切な食事について細かく検討している。

のみ込みやすさ工夫

厚生労働省によると、要介護・要支援認定者は608万人(15年4月)。5年前から120万人増え、今後も増加が見込まれる。介護サービス中に事故が起きた場合、特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護事業所は市町村に報告しなければならない。

施設の中には、誤嚥や窒息を防ぐと積極的に取り組んでいるところもある。東京都東村山市の特別養護老人ホーム「白十字ホーム」では15年ほど前から、食事の介助方法の研修を重ね、ところみや軟らかさを変えた食事も研究してきた。

月に1回は、言語聴覚(勝亦邦夫、高田英、後藤泰良) 〓おわり